

# 英語多読教育における教職協働の取組み

## 英語多読学習環境整備グループ

### はじめに

東北大学附属図書館本館（以下、「本館」という）では、全学教育（1, 2年生共通教育）の英語科目での英語多読法授業を全面的に支援するため、高等教育開発推進センターの教員と協働して教材（リーダーズ）等の多

読学習環境の整備を行ってきた。本稿ではその経緯を記録するとともに、英語多読教育における大学図書館の果たす役割について、その成果と課題を報告することとしたい。

### 1. 多読学習環境整備の経緯

東北大学の全学教育で英語多読法が開講されたのは、平成 21 年のことであった。開講当時は多読を行うためのリーダーズが少なく、教員の研究費により購入するとともに、履修した学生にも購入してもらっていたという。本館にも教員からの購入依頼があり、教員推薦という形で約 700 冊のリーダーズを購入した。この年度に授業を担当した教員は、1 名であった。

平成 22 年度には、高等教育開発推進センターのプロジェクト経費からの補助金によりリーダーズの追加購入を行ったが、それでもテキストの不足は補うことができなかった。本館にも購入依頼があり、さらに約 700 冊のリーダーズを購入することとした。

東日本大震災後の平成 23 年度からは、図書館から積

極的にこの英語多読授業を支援するための働きかけを行った。それまで年度末に行っていたリーダーズ購入を、年度当初から計画するようにし、さらに実際に英語多読授業に参加するなど、教員との協働を意識する活動を行った。この年度には約 1,700 冊のリーダーズを購入するとともに、履修生の使い勝手を考慮して英語多読リーダーズコーナーを設置した。すべてのリーダーズは教員の指示によりレベル分けし、担当教員は 2 名に増加している。

平成 24 年には、5 名の教員が担当することとなり、履修生も倍増することとなった。この年度のリーダーズ購入は約 2,500 冊で、リーダーズコーナーは合計で 5,500 冊を超える規模となった。平成 24 年度 12 月には、本



英語多読リーダーズコーナー

館メインフロアにラーニング・コモンズを完成させるとともに、その一角にリーダーズコーナーを配置した。従来使っていた中古の書架も一新してソファも置き、

真新しくゆったりと学習できるエリアを実現した。これも教員からのアドバイスによるものであった。

## 2. 英語多読法とは

さてここで、東北大学で実施している英語多読法について説明したい。

英語多読法 (Extensive Reading) は、略称で ER とも呼ばれている。この定義については様々あるようであるが、東北大学の英語教員は、『多読法とは、言語能力向上を目的として外国語で書かれた理解可能な大量のテキストを意識的に読むこと』と定義されており『理解可能な』とは、辞書を頻繁に引かなくても容易に理解できる、『大量』とは、年間数十万単語程度、『意識的に読む』とは、計画的に読むという意味である」と紹介している。

また、東北大学では、以下の原則で多読を指導しているという。

① 単語が簡単な本、面白い本、読みやすい本から読み始める。

② 難しい、つまらない、好きではないと思ったら、別の本を探す。

③ 辞書は使わない、分からなければ読み飛ばす。

④ 本を読みながら、同時に CD を聴いてみると本だけより難しい文が読めることもある。

つまり英語多読法とは、楽しむために読むもので、面白い英語の本を沢山、そして計画的に読むことである。大量(年間数十万単語程度)のインプットにより、英語の知識や流暢さが増し、自分でも知らないうちに英語力が向上する。上級者になるまで、「リーダーズ」という多読用の本を使うと紹介している。

## 3. リーダーズのレベル分け

英語多読用のテキストは、出版社もシリーズも多数存在し、表紙にイラストや写真を使ったものが多く、一見カラフルである。内容的には名作ものから、昔話、ディズニーものまで多種多様であり、興味を引くように工夫された読み物という感じである。

また、英語の教科書という位置付けであるため各出版社独自の基準で、3段階程度から10段階程度のレベル分けがされているという特徴もある。レベルが低い図書は頁数が少なく20頁～30頁で、高い図書は200頁～300頁と厚くなっている。価格帯も500円～1,200円程度が主流である。

出版社もシリーズも多数存在し、上記のように編集方針が異なるものが混在するうえに、各社独自基準のレベル分けがされているため、レベル分けされた数字は、多種多様のバラバラ状態であり、同じ出版社の同

じシリーズを購入しない限り意味を成さない。

そのため、図書館等でレベル毎に、あるいはレベルを重視して配架するような場合、各社のリーダーズレベルの統一化が必要となってくる。

本館では、購入した各社の様々な英語多読用テキストについて、基本的に国際英語多読協会が制定した Extensive Reading Foundation scale という基準を参考とし、5段階のレベル分けを行い、そのレベル毎に配架をしている。

レベルの表示は、数字よりも視覚的に簡易に一見して判別可能なように色分けした。「Beginner」は赤色、「Elementary」はオレンジ色、「Intermedkate」は黄色、「UpperInermedlate」は緑色、「Advanced」は青色のステッカーをリーダーズの背表紙に貼付している。

#### 4. 大学図書館の果たす役割

英語の多読法は、個人で行うには経費がかかる学習法である。初級者用のリーダーズでも、価格が廉価なわけではなく、1冊500円～1,200円程度である。例えば、初級者レベルの700円のリーダーズを100冊読むには、7万円の費用がかかることになるのである。

先に述べたように、教員が研究費でリーダーズを準備する場合でも同様であり、なおかつ同時に何百人という学生が利用するのであれば、大量のリーダーズが必要となるのである。

さらに、これらの大量リーダーズを保管管理し、学生への貸出管理を行うためには、教員単独ではとうてい不可能となる。

大量のリーダーズの購入と、資料としての保管・貸出管理は、大学図書館という組織が関与することで、一層効率的・効果的となる。また、図書館が開館している時間中であれば、何時でも閲覧できて貸出を受けられるという点においても、大学図書館にリーダーズ

を配置するということの効用は大きい。

一方、多読リーダーズを整備することに関しては、購入から目録作成、装備作業に多大な労力がかかることを忘れてはならない。購入に関しては、①CDセットやCDのみ別購入、シリーズのセット販売など購入形態が複雑なため発注データの作成が煩雑、②テキストのほかにCDの検取もあるために、受入・検取作業に時間がかかる、③冊数が大量となるので支払い処理にも時間がかかるなどの課題がある。また、目録作成に関しても、大量リーダーズを目の前にして処理を行わなくてはならないために、精神的な疲労が大きいとの問題点も指摘されている。

英語多読リーダーズコーナーの外観からは、配架管理の困難さに目が行きがちであるが、受入から目録、装備までの作業者の努力も、忘れてはならないと考えている。

#### 参考文献

・ダニエル・アイコースト、ベン・シャーロン『ER@TU：多読のすすめ』、東北大学高等教育開発推進センター、2013年

・高瀬敦子『英語多読・多聴指導マニュアル』、大修館書店、2010年

## 付録：英語多読法について

豊田 裕昭

### 1. 英語多読法テキスト

英語多読用のテキストは、出版社もシリーズも多数存在し、表紙にイラストや写真を使ったものが多く、非常にカラフルである。(図1)

内容的には名作ものから、昔話、ディズニーものまで多種多様であり、興味を引くように工夫された読み物という感じであるが、編集方針的には以下の2種類があるようである。

- ① 英語が母国語でない学習者向けに、使用する単語を制限して分量や文法事項等を調整した読み物で、これは『Grade Readers』と呼ばれている。
- ② 英語を母国語とする児童向けに、読むことを学ぶために、レベル分けした教科書や絵本で、これは『Leveled Readers』と呼ばれている。

また、英語の教科書という位置付けであるためか各出版社独自の基準で、3段階程度から10段階程度のレベル分けされているという特徴もある。

レベル分けされているために、頁数的には、一般的な傾向と同様に、レベルが低い図書は頁数が少なく20頁～30頁で、レベルが高い図書は200頁～300頁と厚くなっている。

価格帯は、500円～1,200円程度が主流である。

出版社もシリーズも多数存在し、上記のように編集方針が異なるものが混在するうえに、各社独自基準のレベル分けがされているため、レベル表記は、多種多

様のバラバラ状態であり、同じ出版社の同じシリーズを購入しない限り意味を成さない。

Grade Readersの場合、多くは表示されているHeadword数を確認することで、ある程度の難易度を知ることができる。

Headwordとは、Learning Wordとも呼ばれるもので、良く使われるWord Familyの数を指している。Word familyとは、語幹変化とその活用形、派生形を含めたもので、例えば、Exciteの場合、Excited, Excites, Exciting, Excitable, Excitement等を含めて1個と数える。従って、単なる単語数ではないので、Headword数1,000語レベルというのは、結構レベルが高いということである。

しかしながら、実はHeadword数も、出版社によって微妙に出し方、数え方は異なっている。



図1 各出版社の英語多読法 Readers テキスト

### 2. 指標とレベルの統一化・共通の基準

英語の多読用テキストは、先に記したとおり単語が簡単な本、面白い本、読みやすい本から読み始めるのが原則であり、そのためにはどの程度のレベルのテキストなのかを把握する必要がある。

各出版社のテキストは、大抵、数字などでそのレベ

ル表記がされている。(図2)

しかしながら、それらは標準化されたものではなく、各社独自の基準による様々なレベル分けであり、同じ出版社の同じシリーズの中では意味のある数字であるが、図書館で色々な出版社の様々なシリーズを配架し

た場合、同じレベル5でも、5段階分けしているシリーズでは最上位であり、10段階分けしているシリーズでは、中位レベルと云うことになる。

図書館等では様々な出版社から、色々のシリーズを購入しているの、各出版社の独自でレベル表記は却って利用者に誤解を与える結果となっている。

そこで、図書館の書架でレベル毎に、あるいはレベルを重視して配架するような場合、各社の様々な内容のレベルを一定の基準で一元的に分けて示すことが、利用者のためには必要である。それには共通の基準あるいは統一化した指標を設ける必要があるが、多読のテキストには既にいくつかの標準化基準がある。



図2 レベル表記された英語多読法 Readers テキスト

### 3.1 YL (Yomiyasusa Level)

レベルの共通的な基準として、また、日本人学習者向けに図書の読みやすさを評価する共通の基準として、SSS 英語学習法研究会では、2003年に古川昭夫が考案した指標 YL (Yomiyasusa Level) に基づき、数値を出している。

これは、Headword 数や文法の難易度、テキストの長さ等の客観的な情報の他に、実際に多読した人の声（どの程度簡単だったか等）という主観的な情報も含めて数値を出しており、YL0.0～10.0の数値で表され、数字の小さいほど読みやすいことを示している。基本的に0.0～9.9までで、10.0は難しすぎて多読には適さない本であるということを示している。

YLの場合、レベル0と云われる YL0.0～0.9、語彙250語レベル、1,500語以内の読み物から始めることが推奨されているが、その後をレベル6まで、YL数値により分けている。

- ◇レベル0 (YL 0.0～0.9)
- ◇レベル1 (YL 1.0～1.9)
- ◇レベル2 (YL 2.0～2.9)
- ◇レベル3 (YL 3.0～3.9)
- ◇レベル4 (YL 4.0～4.9)
- ◇レベル5 (YL 5.0～5.9)
- ◇レベル6以上 (YL 6.0～)

### 3.2 Extensive Reading Foundation scale


Extensive Reading Foundation の Graded Readers Scale は、単純に Headword 数という客観的な数字を基準として「Beginner」「Elementary」「Intermedkate」「UpperIn- meddlate」「Advanced」の5段階に分けたものである。(図3)

出版社によって微妙に出し方、数え方が異なるとはいえ、Headword 数は各社の出版物に記載されている場

合が多く、その数字で機械的にレベル分けすることは可能である。

また、主な出版社の主なシリーズに付けられたレベル表記を、先の5段階に補正するガイドも用意している。(図4)





## The Extensive Reading Foundation Graded Readers Scale

	Beginner				Elementary			Intermediate			Upper Intermediate			Advanced		
	Alphabet	Early	Mid	High	Early	Mid	High	Early	Mid	High	Early	Mid	High	Early	Mid	High
<b>Headword<sup>1</sup> count</b>	1-50	51-100	101-200	201-300	301-400	401-600	601-800	801-1000	1001-1250	1251-1500	1501-1800	1801-2100	2101-2400	2401-3000	3001-3600	3601-4500

This scale is only for approximate leveling of Language Learner Literature by headword counts by series. Some individual titles may need to move up or down as necessary.


A list of where each publisher's Graded Reader series fit this scale is available at [www.ERFoundation.org/GradedReaderScale/](http://www.ERFoundation.org/GradedReaderScale/)

Extensive Reading Foundation  
<http://www.ERFoundation.org/>

<sup>1</sup> A headword is similar to a dictionary entry where a group of words share the same basic meaning. Eg. *helps, helping, helpful, helpless.*

© Extensive Reading Foundation 2009

図3 Headword Count による Graded Readers Scale



## The Extensive Reading Foundation's Guide to Extensive Reading

	Beginner				Elementary			Intermediate			Upper Intermediate			Advanced		
	Alphabet	Early	Mid	High	Early	Mid	High	Early	Mid	High	Early	Mid	High	Early	Mid	High
	1-50	51-100	101-200	201-300	301-400	401-600	601-800	801-1000	1001-1250	1251-1500	1501-1800	1801-2100	2101-2400	2401-3000	3001-3600	3601-4500
<b>Cambridge University Press</b>																
Cambridge English Readers				Stories	1	2		3			4			5	6	
Discovery Readers				Stories	1	2	3	4			5					
Cambridge Textbooks	1	2	3	4												
<b>Holt, Rinehart &amp; Winston</b>																
Foundations Reading Library	1,2	3,4	5,6	7												
Foreign Reading Library						1	2	3	4	5	6	7,8				
Step by Step Reading Library		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
<b>Macmillan</b>																
English Explains	1,2	3	4	5	6											
Macmillan Children's Readers	1	2	3		4						5,6					
Macmillan Readers			Stories		beg			Elem	Inter		Inc		Upper			
<b>Oxford University Press</b>																
Readers and Texts			Stories		1	2	3		4		5					
Stories			Stories		1	2	3									
Classic Tales		beg 1.2	Elem 1	Elem 2	Elem 3											
<b>Penguin</b>																
Penguin Readers			EasyStarts	1	2			3			4		5		6	
Penguin Active Reading			EasyStarts	1	2			3			4					
Penguin Young Readers	1	2	3	4												

A NON-PROFIT ORGANIZATION FORMED FOR THE CHARITABLE PURPOSE OF THE EXTENSIVE READING FOUNDATION AND/OR RELATED EDUCATIONAL PURPOSES. © 2011 Extensive Reading Foundation (2011)

図4 Guide to Extensive Reading

#### 4. TOEIC や TOEFL との関係

この YL や Headword 数と、TOEIC や TOEFL といった世界的な共通試験とのレベル関係はどうかと云ったニーズもあり、1つの目安として以下のような表も出廻っている。(図5)

また、Penguin社では、自社の Graded Readers レベルと、Headwords、更に TOEIC、TOEFL iBT、英検、CEFR とのレベル関係を表としている。(図6)

これらの表により、Headwords と TOEIC、TOEFL iBT 等との目安も明らかとなった。

YL		TOEIC	
YL0.0 ~ 0.8		500 点	
YL0.5 ~ 1.8		600 点	
YL0.5 ~ 3.0		700 点	
YL1.0 ~ 4.0		800 点	
YL1.0 ~ 5.0		900 点	
YL1.0 ~ 6.0		900 点	

図5 YL と TOEIC とのレベル関係レベル

Level	Headwords	TOEIC	TOEFL iBT	英検	CEFR
Easystarts レベル	200	250	26-27	4 級	A1
レベル 1	300	250	26-27	4 級	A1
レベル 2	600	350	36-37	3 級	A2
レベル 3	1200	400	40	準 2 級	A2
レベル 4	1700	500	52	2 級	B1
レベル 5	2300	600	62-63	2 級 - 準 1 級	B2
レベル 6	3000	730	79-80	準 1 級	C1

図6 Penguin Graded Readers レベル

#### 参考文献

- ・ダニエル・アイスコースト、ベン・シャーロン『ER@TU：多読のすすめ』、東北大学高等教育開発センター、2013年  
[http://erfoundation.org/ERF\\_Guide.pdf](http://erfoundation.org/ERF_Guide.pdf) (参照 2013-9-13)
- ・酒井邦秀 監修『記録手帳つき：やさしい多読・多聴 最新ガイド』、学研教育出版、2012年  
・ Pearson ELT  
<http://www.longmanjapan.com/penguin/readers.html> (参照 2013-9-13)
- ・古川昭夫、神田ななみ 編著『めざせ 1000 万語：英語多読完全ブックガイド』改訂第3版、コスモビア、2010年  
・多読プラス  
[http://www.tadokuplus.com/pages/tadoku\\_a2z/yl.php](http://www.tadokuplus.com/pages/tadoku_a2z/yl.php) (参照 2013-9-13)
- ・ The Extensive Reading Foundation  
<http://erfoundation.org/wordpress/graded-readers/erf-graded-reader-scale> (参照 2013-9-13)
- ・ The Extensive Reading Foundation's Guide to Extensive Reading  
(とよだ ひろあき、附属図書館情報サービス課長)